パウロの回心

使徒言行録 9:1~19

2022年1月26日

井田泉

"Saul, Saul,

why do you persecute me?"

"Who are you, Lord?" Saul asked.

"I am Jesus

whom you are persecuting," he replied.

ACTS 9:4-6

使徒聖パウロ回心日 特祷

1月25日

神よ、あなたは使徒聖パウロの宣教 により、福音の光を全世界に照らさ れました。どうかわたしたちがその 回心を心に留め、これを感謝して、 その宣べ伝えた聖なる教えに従うこ とができるようにしてください。主 イエス・キリストによってお願いい たします。アーメン

Conversion of Saint Paul the Apostle

O God, by the preaching of your apostle Paul you have caused the light of the Gospel to shine throughout the world: Grant, we pray, that we, having his wonderful conversion in remembrance, may show ourselves thankful to you by following his holy teaching; through Jesus Christ our Lord, who lives and reigns with you, in the unity of the Holy Spirit, one God, now and for ever. Amen.

初代の教会の様子

「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」 使徒言行録2:42

「2:43 すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行われていたのである。……46 そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、47 神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」

「使徒の教え」つまりイエス・キリストの福音です。それを語り、聞き、分かち合うことが教会の中心にある。

「パンを裂くこと」。当時は、信仰の交わりとしての食事(愛餐、アガペー)と聖餐式がまだ一体であったのでしょう。

やがて教会は迫害を受けます。ペテロが神殿で足の不自由な人を癒したことがきっかけとなって、イエスの名によって語ること禁じられ、脅迫されるのです。しかし信徒たちは神を呼んで切に祈ったことをとおして、新しく神の力づけを受け、「聖霊に満たされて」(4:31)、いっそう大胆に神の言葉を語り始めます。

ステファノの殉教とパウロ

「7:55 ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、56 『天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える』と言った。57 人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、58 都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。

59 人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、『主イエスよ、わたしの霊をお受けください』と言った。60 それから、ひざまずいて、『主よ、この罪を彼らに負わせないでください』と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。」

さて、最初の教会内に起こった食べ物の分配の問題の解決のため、また新しい指導者の必要から7名が新しく選ばれました。そのひとりがステファノ(ステパノ)です。彼は神の霊と知恵に満ちた人でした(6:3、10)。

彼はエルサレム神殿とそれに依拠する指導者たちを厳しく批判したため、激しい憎しみを買い、石で打たれて殺されました。 最初の殉教者です。

ステファノの最期とその祈りは、イエスと最期とその祈りと思わせます。イエスの霊がステファノに働いていたに違いありません。

そのステファノの殺害に荷担したひとりがサウロ(後のパウロ)でした。



ステファノの殉教

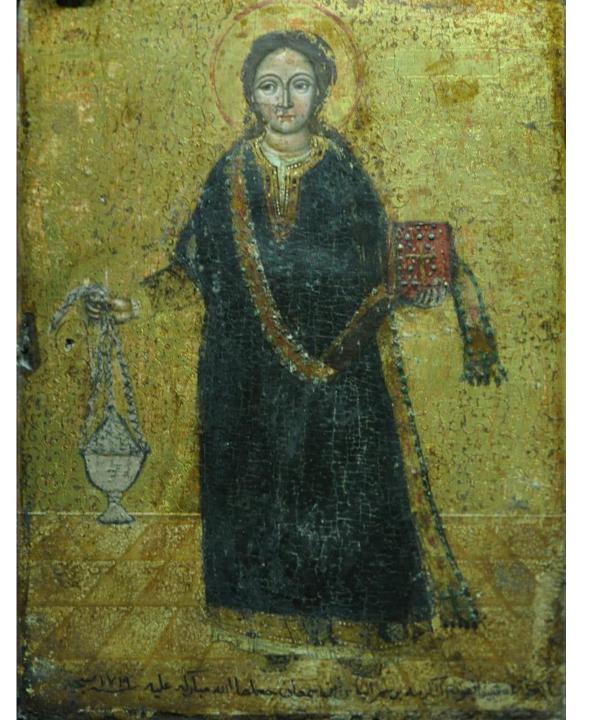
ミケランジェロ・メリー ジ・ダ・カラヴァッジオ $(1571 \sim 1610)$





Santo Peranda (1566-1638) Church of San Stefano, Venice, Italy

https://www.christianiconography.info/Edited%20in%202013/Italy/stephenMartyrdomPeranda.html





吊り香炉と聖書を持つステ ファノ

福音書の朗読と香を振ることは執事の役とされた。

左は18世紀のイコン Pinacoteca Vaticana, Rome

右は西方教会、中世の典型 的なもの。三つの石が殉教 を示す。 「8:1 サウロは、ステファノの殺害に賛成していた。

その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、 使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散っ て行った。2 しかし、信仰深い人々がステファノを葬 り、彼のことを思って大変悲しんだ。3 一方、<u>サウロ</u> <u>は家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わ</u> ず引き出して牢に送っていた。

9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、2 ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。」

サウロたちにとっては、イエスを信じる グループ (最初のキリスト教会) はユダヤ 教の中に生じた許しがたい異端でした。な ぜなら人間であるはずのイエスを救い主、 神の子と信じ、しかも神聖なエルサレム神 殿を冒瀆する者たちであったからです。 (もっとも最初の教会は全体としてエルサ レム神殿を否定したわけではなく、考え方 の幅がかなりあったようです。)

サウロの回心の記事は次の第9章です。

「9:3 ところが、サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。4 サウロは地に倒れ、『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。

5 『主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。6 起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。』」

「7 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。8 サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。

9 サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。」

彼は天からの強い光を受けて地に倒れ、 イエスの声を聞きました。

ここで彼が経験したのは恐ろしい闇です。 自分がこれまで正しいと思って熱心に燃え てして来たことが、間違いであったのか、 という絶望的な苦しみ。あのステファノの 死の場面がよみがえってきたのではないで しょうか。自分は何の罪もない人の殺害に 荷担した。神から遣わされた人を迫害し、 死に追いやった。

目が見えなくなった、というのは現実の 肉眼のことであるとともに、彼の一切の考 え、判断、言わば霊の目がまったく見えな くなった、ということでしょう。否、そも そもこれまでずっと見えていなかった。神 に従っているつもりが実際は神に敵対し、 罪のない人を殺してきたのが自分なのです。 そう思うと、もう自分には生きる資格はな い。生きることは許されないと感じます。 「9:10 ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。幻の中で主が、『アナニア』と呼びかけると、アナニアは、『主よ、ここにおります』と言った。

11 すると、主は言われた。『立って、"直線通り"と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。12 アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。』」

「13 しかし、アナニアは答えた。『主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。 14 ここでも、御名を呼び求める人をすべて捕らえるため、祭司長たちから権限を受けています。』」 しかしここで神は彼を見捨てられませんでした。イエスは、ひとりの弟子アナニアに命じて、サウロのところに行かせられます。

しかしアナニアはサウロに会うのが恐ろしい。アナニアはイエスにそれを訴えます。

「(9:15) 行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。16 わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」

「17 そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。『<u>兄弟サウル</u>、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。』」

「18 すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、19 食事をして元気を取り戻した。」

しかし主の決意はかたく、こう言われました。

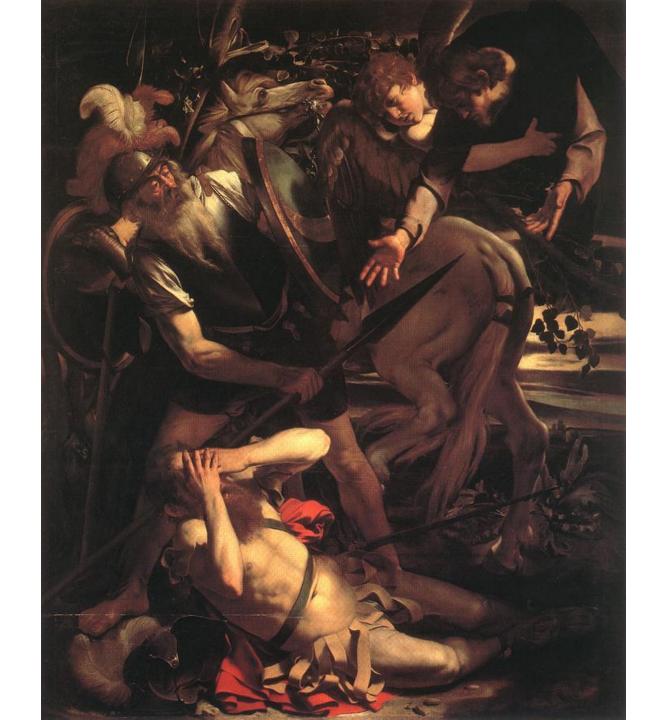
こう命じられてアナニアは、主の言葉に 従ってサウロのところに行きます。けれど もアナニアは恐ろしかった。逃げたかった。 どんなに勇気がいったでしょう。ただ主の 言葉にすがって歩を進めた。そしてもうひ とつ「今、彼は祈っている」と聞いたこと が、アナニアの足を前に向けさせたのでは ないか、という気がします。

アナニアはサウロの上に手を置いて祈りました。「兄弟サウル」と呼びかけているのが印象的です。これまではおそろしい敵であった。しかし主イエスのゆえに、今は兄弟なのです。

サウロの霊の目を見えなくしていたものは取り除かれました。今や彼は、神を知り、イエス・キリストを知り、自分を知ったのです。目から落ちたうろことともに、彼のかたくなさ、傲慢は溶かされ清められ、自責、絶望は取り除かれた。代わりに与えられたのは、赦しと新しい使命です。

ここで洗礼を受けたことが記されている のも印象的です。洗礼の水をくぐって、彼 は古い人として死に、イエス・キリストと 一体とされた新しい人として再生したので す。同時に「食事をして元気を取り戻し た」と、具体的に書かれているのも興味深 い。 これがサウロ=パウロの回心の物語です。 これはもちろん神が、イエス・キリストが、 聖霊が働かれて起こったことです。言わば 決定的な、神による奇跡の出来事です。

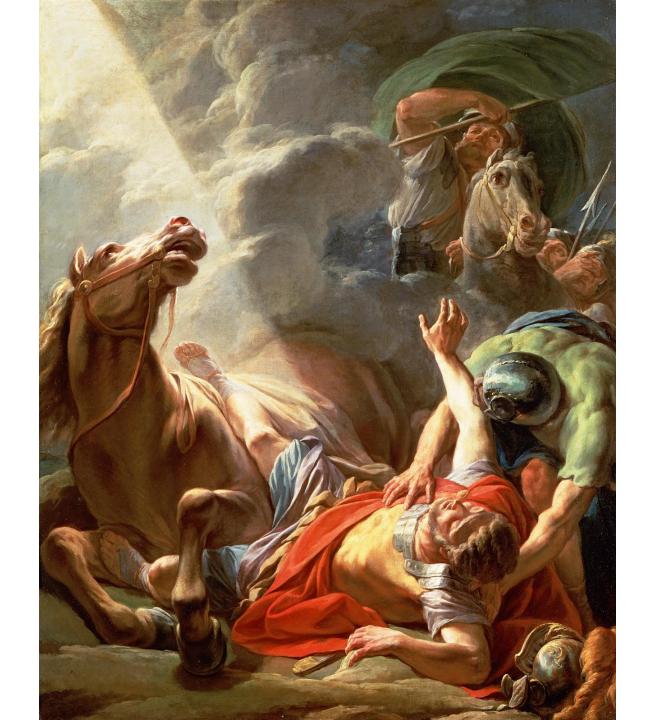
しかし同時に、アナニアの決意と働きがあってこそ実現した。さらにあの石で打たれて血を流して死んでいったステファノが、死んで後も彼サウロに働きかけ続けていたからこれが起こった、と思えてなりません。



The Conversion of Saint Paul, Caravaggio, 1600



The Conversion of Saint Paul, Luca Giordano, 1690, Museum of Fine Arts of Nancy



Nicolas Bernard Lépicié 1735-1784 ニコラ・ベルナール・レピシエ

ガラテヤの信徒への手紙

「1:13 あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました。

14 また、先祖からの伝承を守るのに人<u>一倍熱心で</u>、 同胞の間では同じ年ごろの多くの者よりもユダヤ教 に徹しようとしていました。

15 しかし、わたしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくださった神が、御心のままに、

16 <u>御子をわたしに示して</u>、<u>その福音を異邦人に告</u> <u>げ知らせるように</u>された…… 後にパウロはかつての自分を振り返り、 ガラテヤの信徒への手紙でこのように言っ ています。

彼の「熱心」は、当時の彼の意識としては神への熱心、信仰の熱心であった。しかしそれは人を滅ぼす熱心だった。回心して後は、人を生かす熱心に変わった。

彼の回心は、神の意志によるものであり、 そこには神の目的があった――異邦人への 伝道。

神は、ダマスコ途上のパウロ(サウロ) に「御子」を示された。<u>イエス・キリスト</u> <u>を知った</u>ことが決定的に重要。

フィリピの信徒への手紙

「3:8 そればかりか、わたしの主<u>キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさ</u>に、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。

9……私には、<u>律法による自分の義</u>ではなく、<u>キリストの真実による義、その真実に基づいて神から与えられる義</u>があります。」【聖書協会共同訳】

パウロはイエス・キリストを知ったこと のすばらしさを語ります。

律法の中で特に重要とされたのは「神の みを神とする」こと、偶像を拝まないこと、 安息日を守ること。

彼がかつて信奉していたファリサイ派ユダヤ教においても、救いは神によるのであって、律法を行うことによるのではない。

しかし現実には、律法への熱心のあまり「自分の義」を立て、それを誇るようになっていただろう。回心において「自分の義」を頼む自己は崩壊し、イエス・キリストによる義(イエス・キリストによって神から決定的に肯定されること)を知った。これは古い自己からの解放であり、彼の新生であった。

「26:15 私が、『主よ、あなたはどなたですか』と申しますと、主は言われました。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

16 起き上がれ。自分の足で立て。わたしがあなたに現れたのは、あなたがわたしを見たこと、そして、これからわたしが示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人にするためである。

17 わたしは、あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのもとに遣わす。

18 それは、彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち帰らせ、こうして彼らがわたしへの信仰によって、罪の赦しを得、聖なる者とされた人々と共に恵みの分け前にあずかるようになるためである。』」

使徒言行録には第9章のほかに、第 22章、第26章にもパウロの回心が記さ れています。そこではパウロ自身が語 る形になっています。

イエスはパウロに自立(この世のあらゆる力からの独立)を促された。

回心は召命(神の使命を行うこと) を伴っている。

わたしたちもまた、霊の目を開かれ、 光の世界に導かれ、神に立ち帰って恵 みを受けるようにと招かれた。それは 同時に自立の道である。

「大切なのは成長させてくださる神」 I コリント3:7

紀元

- 30頃 イエスの十字架の死と復活
- 32頃 ステファノ殉教
- 33頃 パウロの回心
- 61/62 パウロ殉教

90頃 使徒言行録成立